システム技術分科会　2015年度第2回会合

組織のためのサイバーセキュリティ対策

-セキュリティポリシーとCSIRT-

講演1　室蘭工業大学におけるセキュリティポリシーの策定とその運用

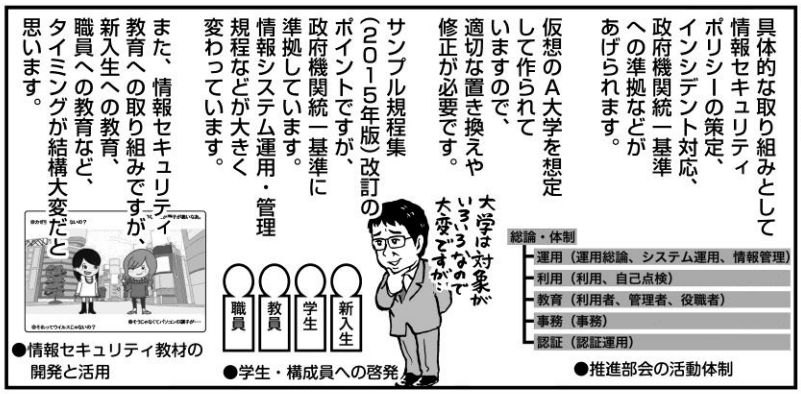
刀川 眞氏　室蘭工業大学

●室蘭工業大学の意思決定機関

●留学生向けテキストを製作

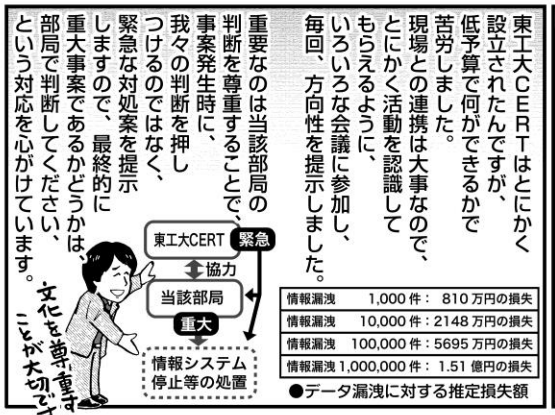
講演2　高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規程集改訂のポイント

金谷 吉成氏　東北大学



講演3　東工大CERTの立ち上げと現在の取り組み

松浦 知史氏　東京工業大学



講演4

標的型攻撃時代に求められる組織のサイバーセキュリティ対策

奥原 雅之氏　富士通

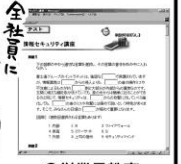
セキュリティポリシー、CSIRTというものに富士通がどんなことをやっているか紹介いたします。

情報セキュリティポリシーとは、「セキュリティ対策について意思決定したもの」であり、スコープ（適用範囲）とは、「セキュリティポリシーの支配が有効となる範囲」と定義しています。適切な強度をもったペリメータ（境界）によって、ポリシーが保証され、インターフェースによって外部と交換します。

情報セキュリティマネージメントも行ってます。マネージメント活動の評価が大事です。富士通のCSIRTも運用されています。

また、標的形サイバー攻撃も分析しています。どんな人が、何のためにやっているのか、サイバーの領域が急激に変化することも注目しています。防御は大切なのですが、被害を0にはできません。コストとの兼ね合いとログを追跡できるようにしておくことが重要です。

全社員に実施しています



●従業員教育

標的型メール	Webサイト
●正規アカウントからのマルウェア添付メール ●少しずつカスタマイズされた大量のメール	●改ざんされた正規サイトがマルウェアに感染させられる ●標的の関連企業のWebサイトを改ざん

内部への侵入を防ぎきれない

緊急企画　意見交換

「セキュリティガバナンス大丈夫ですか?」

司会　林　直樹氏　富士通

林　昨今、悪質化しているサイバーセキュリティに対して、ご講演をいただきましたが、大学や研究機関におけるガバナンスについて意見交換をしたいと思います。

高倉　まず、最近、大学からの情報漏洩が増えています。コピー機が空調制御機器がインターネットからアクセスできるようになっていて、そこから直接や間接的に漏れてしまう。その事態が官庁から直接問い合わせが来て、ごまかしが効かない状態になってしまう。セキュリティ強化は各大学必須の課題ではあるが、そのための予算を付ける余裕は国にはないのが現状です。

西村　本日は、「問題が起こらないようにしている対策」と「問題が起きてしまったときの対応」をお話しいただきました。今後は「CSIRTの人材育成だけでは不十分」とか「中小組織にもガバナンスが必要」という課題も検討が必要と言われています。とはいえ、組織単独での対応には限界があると思います。そこで、皆さんの組織でのセキュリティマネジメントの現状、組織間での連携の可能性などについてご意見をいただきたいと思います。

鈴木　高エネ研の規模は大学より小さいぐらいですので、サンプル規程集に規程されているような総合大学とは前提があちこち異なります。が、セキュリティ意識の一層の向上が必要な状況は同じです。CSIRTはありますが、東工大CERTの講演にあったように部局との良好な関係を維持していくことまではまだ手が回りきっていないかもしれません。また低予算でどういうことが出来るのか、最終的にどのレベルのセキュリティ対策が適切なのかを考えることが重要だと思います。

藤村　私は私立大学の総合処理センターの所属で、学生が2万人、教員が千数百人、看護師さんもいれると、もっとになります。この規模になりますと、いろいろなことが簡単に決められなくなっています。また、学内での最適化がうまくとれていないので、総合的な、対策はあまり進んでいません。ポリシーも作っているのですが、国立大学に比べるとまだまだかなという感じがしています。ネットワーク認証と検疫システムの導入に1年ほどかかりましたが、導入してしまうと不具合もなく運用出来ています。やはり個人の意識の問題かと思います。

ここからは会場からの質疑を交えての意見交換となりました。やはり「どのぐらいのレベルのセキュリティが必要なのか?」「導入にはかなりのエネルギーが必要なので、大学同士で補う形で適切なレベルにもっていけないか?」などの意見がありました。